

フィリピン海パレスベラ海盆のゴジラムリオンから採取された下部地殻の断層岩

Fault rocks of in situ lower crust dredged from the Godzilla Mullion, Parece Vela Basin (Philippine Sea)

針金 由美子 [1]; 道林 克禎 [2]; 小原 泰彦 [3]

Yumiko Harigane[1]; Katsuyoshi Michibayashi[2]; Yasuhiko Ohara[3]

[1] 静大; [2] 静大・理・地球科学; [3] 海洋情報部

[1] Shizuoka Univ.; [2] Inst. Geosciences, Shizuoka Univ; [3] Hydrographic and Oceanographic Dept.of Japan

フィリピン海パレスベラ海盆で発見されたゴジラムリオンは大西洋中央海嶺で発見されたメガムリオンよりも数倍以上広い規模を誇る。ゴジラムリオンは非マグマ性の伸張テクトニクスである海洋コアコンプレックスであると解釈されている。さらにゴジラムリオンがマントルリソスフェアにまで達する大規模なデタッチメント断層の可能性が示唆されてきたが、その成因に関しては未だに明らかではない。本研究ではゴジラムリオンから採取された断層岩について構造解析を行い、ゴジラムリオンに発達するデタッチメント断層の運動過程について考察する。本研究で解析した断層岩は主にかんらん岩とはんれい岩であり、調査船「かいいい」及び「白鳳丸」による海洋底調査(KR03-01, KH07-2-Leg 2, 4)において採取された。変質作用を強く受けているが、全体としてかんらん岩やはんれい岩はマイロナイト化している。本発表では、これらの断層岩についての微細構造解析と主要元素分析の結果を示し、その特徴をまとめて議論する。